

## 目 次

### 1. 各専攻・講座の教育・活動報告

看護学専攻・看護学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

医療技術学専攻医用量子科学講座・放射線技術科学専攻・・・・・・・・ 7

医療技術学専攻病態解析学講座・検査技術科学専攻・・・・・・・・ 17

リハビリテーション療法学専攻・理学療法学講座・理学療法学専攻・・・・ 27

リハビリテーション療法学専攻・作業療法学講座・作業療法学専攻・・・・ 33

### 2. 公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39



## 看護学専攻・看護学専攻（平成26年度）

我が国の看護は、慢性的な看護師不足に加え、看護の質を問われる時代になってきている。そのような中、優秀な看護師/助産師/保健師の育成、看護の質の向上とその評価システムの構築、新たな看護の知の創生など、看護系大学に期待される役割は多彩である。特に本学は博士課程を有する看護系大学院として、ますます増加しつつある近隣の看護系大学の教員育成の役割も担っている。

### 1. 運営

本専攻では、専攻教授会において互選により選出した専攻主任を中心に、次期主任が副主任として補佐的な役割を担い、活動が継続できるような体制をとっている。専攻独自の委員会として、従来からの教育委員会、実習委員会、予算委員会、感染対策委員会、倫理委員会、就職・国家試験委員会、大学院委員会、整備計画委員会、国際交流委員会、入試委員会を設けている。

毎月各一回の看護教授会と専攻会議（教員全員参加）、および適宜臨時教授会を開催して、専攻の方針を決定・確認・修正し、その方針に基づいて各自の役割を遂行した。主任・副主任・各領域長・実習委員長は附属病院看護部管理部門との合同会議（ユニフィケーション委員会）を1～2ヶ月に一回開催し、情報交換を密に行った。

実習委員会と国際交流委員会においては年報を作成し、毎年の活動を記録していくことにしている。交際交流の実績については、その活動状況をホームページに掲載して公開している。

他大学との連携については、日本看護系大学協議会、国立大学保健医療学系代表者協議会、全国保健師教育機関協議会、日本看護系大学協議会、愛知県看護系大学連絡協議会に加盟しており、それぞれの総会や各種報告会に参加し、情報交換や組織的活動を行った。

### 2. 教育活動

#### 1) 学部教育

学部教育においては、大学院講座化のあとも従来の4講座制を維持し、きめ細かな指導を行って、知性と感性を備えた看護職の育成を目指している。4月には例年どおり新入生歓迎合宿を教員のサポートのもとで在校生が主体となって企画・実施した。

今年度は特に、附属病院看護部との連携をさらに強化し、年度当初に附属病院看護師に依頼する講義や演習をリストアップして専攻主任名で委嘱状を発行することに

し、正式な手続きを確立した。今年度の依頼は12科目に渡り、のべ21名の看護師に、合計26コマの講義、技術演習補助、実習オリエンテーションなどを担当してもらった。学生にとっては、より現在の臨床実践に基づいた学習をする機会となり、教員と臨床看護師とが共通理解を深めて、一貫した教育をすることができた。

指定規則が改訂された新助産師・保健師カリキュラムにより、助産師・保健師国家試験受験科目受講者は選抜制となり、選抜試験を実施した。選抜試験は4月初旬に行い、筆記試験および面接により、助産師科目受講者は10名、保健師科目受講者は16名を合格とした。また、この改正に伴い、全員の学生に地域基礎看護学実習を開講し、あいち健康の森プラザ、あいち小児保健医療総合センター、名古屋市総合リハビリテーション事業団、新日鉄住金名古屋製作所の4箇所で1単位の実習を行った。

学部生の国際交流は昨年から継続し、延世大学ウォンジュ校とシンガポール大学との交流を行った。本学学生は7月に4名シンガポール大学、9月に2名延世大学ウォンジュ校を訪れ、それぞれ1週間の海外研修を行った。先方からは、9月に4名のシンガポール大学生が来日し、2月には延世大学ウォンジュ校から3名が来日し、それぞれ1週間の研修を行った。派遣にあたっては国際交流委員会を中心に、志望動機の書類審査と面接を行って選抜した。選抜された学生は各国において、さまざまな医療保健施設を見学および実習を行って国際的視野を広げた。受け入れにおいては、シンガポール大学学生は医学部附属病院や企業等の見学、延世大学ウォンジュ校学生は医学部附属病院において教員の案内のもとに見学実習を行った。実習受け入れに際しては、感染症の抗体価の確認を行った。いずれの大学の受け入れにおいても、本専攻有志学生によるボランティアグループが空港への送迎、歓迎会・送別会、市内観光等を企画・運営し、適宜教員がサポートした。

学部教育の質の向上のため、専攻独自の学部教育FDを毎年実施しており、今年度は実習評価について、豊橋創造大学保健医療学部看護学科長 大島弓子氏にご講義いただき、教員でグループワークを行った。

## 2) 大学院教育

今年度大学院博士課程前期課程修了者は13名、後期課程修了者は1名であった。

大学院前期課程においては、がん専門看護師コースが設置10年目を迎え、38単位コースとして申請し、認定された。単位増加に伴い、日本看護系大学協議会指定の科目を新設し、実習単位を増やすなど、大学内外における調整を図った。

また昨年採択されたリーディング大学院プロジェクト“ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成プログラム”が本格的に始動した。本プロジェクトは、国際開発研究科、教育発達科学研究科、生命農学研究科、医学系研究科の合同プロジェクトであるが、看護学専攻は女性教員・女子学生が多く、中心的な役割を担っ

ている。今年度は、博士前期課程の女子大学院生1名がプログラム第一期履修生となっており、海外研修への参加やマスコミへの広報活動などに活躍している。

他専攻と合同で行っている延世大学との学術交流は、今年度は本学で学術交流会が開催され、本専攻の大学院生4名（博士後期課程1名、博士前期課程3名）が発表した。発表演題は以下のとおりである。

- ・ Relationship between mental health state and lifestyle using smartphone and mobile phone in high school students
- ・ Obstacles and possible solutions to initiate early rehabilitation on hemodynamically and neurologically instable patient
- ・ Nursing intervention to a patient with delayed rehabilitation due to fear from dyspnea
- ・ The patient's perspective on support of medical staff and family in perioperative period is associated with their Quality of Life on postoperative day 14

発表した4名のうち2名が、翌年6月にウォンジュを訪問し、大学院の講義に参加したり、病院の見学などを行う予定である。

### 3. 研究活動

今年度、本専攻教員の執筆した研究論文は37本、総説・解説2本、著書8本であり、学会発表は73件であった。学会のうち32件は国際学会である。以下が今年度、教員が取り組んでいる研究課題一覧である。（教授・准教授のみ、4月当初在任者のみ）

- 太田 勝正 : 情報倫理・情報プライバシーに関する研究、看護用語の標準化に関する研究、看護倫理に関する研究、放射線看護・放射線防護に関する研究
- 山内 豊明 : 看護実践におけるアセスメントの理論構築と実証的研究、看護ケアについての評価システムならびにその指標の開発、医療の質・安全ならびにマネジメントに関する研究、医療専門職間の関係性ならびに相補性についての研究
- 藤本 悦子 : 看護技術の検証と開発、睡眠・せん妄に関する研究、リンパ浮腫ケアに関する研究、組織再生を促すドレッシング材の開発
- 本田 育美 : 慢性の病をもつ人の健康行動（セルフマネジメントや疾病管理）に関する研究、高齢者のヘルスプロモーションに関する研究、看護師の臨床推論に関する研究
- 大島 千佳 : 看護技術の検証と開発、睡眠に関する研究、血流およびリンパに関する

- る研究
- 安藤 詳子 : がん性疼痛緩和に関する研究、終末期看護に関する研究、がん患者の症状マネジメントに関する研究
- 大川 明子 : がん患者・家族への看護ケアの探求、遠隔がん看護支援システムに関する研究、補完・代替療法に関する研究
- 池松 裕子 : 循環危機患者の自覚症状、クリティカルな患者の QOL、発達障害のある看護学生の学習支援プログラム開発
- 横内 光子 : 救急看護に関する研究、周手術期看護に関する研究、急性期医療システムに関する研究
- 河野 由理 : 精神障がい者の退院支援や地域ケアに関する研究、児童・思春期の精神保健に関する研究、精神看護の技術および評価に関する研究、看護師のメンタルヘルスに関する研究
- 會田 信子 : 健康問題を有する高齢者の看護介入、老年看護におけるケア技術の開発と検証、高齢者ケアの教育方法に関する研究、介護家族への支援、一般市民の認知症などに対する認識と行動
- 浅野 みどり : Special needs (一過性ではない健康問題) をもつ子どもと家族の看護、家族の価値観と強みを尊重した養育期の家族への予防的ケア : アレルギー疾患、発達障がい、多胎児育児など、子どもと家族の Well-being
- 奈良間 美保 : 子どもと家族中心のケア、在宅療養児と家族の支援開発
- 玉腰 浩司 : 生活習慣病に関する研究、母子保健に関する研究、婦人科疾患・周産期疾患に関する研究
- 入山 茂美 : 母乳育児に関する研究、産痛緩和ケアに関する研究、思春期の若者の性行動に関する研究、国際母子保健に関する研究
- 島 明子 : 女性のヘルスケアに関する研究、中高年女性の更年期症状のケアに関する研究、周産期ケアに関する研究
- 梶田 悦子 : 生活習慣病とライフスタイル、エビデンスに基づく保健師活動
- 榊原 久孝 : 生活習慣病の健康管理、職場の保健管理、物理的因子 (振動) による健康影響
- 渡井 いずみ : 産業看護に関する研究、ワーク・ライフ・バランス支援に関する研究、公衆衛生看護における家族支援に関する研究
- 平井 眞理 : 高血圧・虚血性心疾患患者の生活支援に関する研究、動脈硬化の予防と治療に関する研究、不整脈の薬物療法・非薬物療法に関する研究
- 前川 厚子 : がんサバイバーの QOL と教育に関する研究、スキンケアと創傷管理に関する研究、ストーマ保有者の QOL と適応に関する研究、訪問看護師のキャリア開発に関する研究、炎症性腸疾患に関する研究、看護・介

## 護用品の開発と安全性に関する研究

### 4. 社会活動

今年度は、来年度から名大病院総合医学教育センター内に設置される看護キャリア支援室の人事選考および運営方針整備等に本専攻教員が参画した。

名古屋大学医学部附属病院看護部の卒後研修・キャリア支援活動には、従来から協力しており、今年度も、看護師の管理・専門能力育成のためのプログラムに多くの教員が講師として携わった。今年度、看護学専攻の教員が担当した院内研修は、「看護と倫理」、「看護研究」、「人間関係論・リーダーシップ論」、「看護情報とその分析・活用」、「看護の質評価」、「人を育てるといふこと」、「看護研究（中級編）質的研究」、「看護理論」、「クリティカルケア院内認定実習発表会」であった。

平成 25 年度から行っている、名大病院看護師へのキャリア相談は、今年度は教授ひとりあたり 2 回で、計 24 回行った。なかなか相談者は増えないが、時間をかけて浸透するように、継続していく方針である。

名古屋大学医学部附属病院に入院する中高生への学業支援ボランティアサークルを立ち上げることになっており、本専攻の学生はその中心メンバーとして活動している。現在、正式な公認サークルとなるべく申請中である。

(主任：池松 裕子)





## 医療技術学専攻医用量子科学講座・放射線技術科学専攻（平成26年度）

医療技術学専攻医用量子科学講座（放射線技術科学専攻）における教育と研究の目標は、以下の通りである。

- ・ さまざまな画像診断技術（CT、MRI、X線、核医学装置、USなど）の原理や特性を理解し、安全・確実に機器の能力を最大限発揮できるようにする。
- ・ 治療のため人体に的確に放射線を照射できるようにする。
- ・ 放射線が人体に及ぼす影響について幅広い知識と応用力を身につける。
- ・ 専門知識ばかりでなく豊かな人間性を合わせ持つ人材を育成する。
- ・ 日進月歩する医療分野の進歩を理解し、指導的立場となる医療技術者および放射線技術科学を学ぶ人々を指導する人材を育成する。
- ・ 自ら医療の進歩を創生し世界的な研究の一翼を担うことができる研究者を育成する。

### 1. 運営

医療技術学専攻医用量子科学講座（放射線技術科学専攻）における教育に関するさまざまな問題、教育研究費の予算配分等の運営は、毎月1回の専攻会議、並びに専攻教授会の合議に基づいて行われている。

### 2. 教育活動

学部教育：

平成26年度の新入学生は、新1年生が41名、3年次編入者は3名であった。2年生は43名、3年生は48名（編入生3名を含む）、4年生は47名（編入生4名を含む）で、4年生は12名の教員のもと、それぞれの研究室で卒業研究を行った。また、3年生以下の学生も、12名の教員が指導教員となり、勉学、生活の両面で指導を行っている。診療放射線技師国家試験は卒業生43名が受験し、そのうち39名が合格した（合格率90.7%）。編入生を含む卒業生名の進路は、医療機関に32名、その他6名、大学院進学が9名であった。

学部教育は、専任教員による授業の他に、非常勤講師を招いた特別講義、臨床実習、臨床現場の見学（名古屋大学医学部附属病院、愛知県がんセンターをはじめ、学生の出身地や学生の希望就職病院など）、放射線管理に関連して原子力発電所の見学

(中部電力浜岡原子力発電所) など、将来、医療あるいは生産現場で役に立つと思われる教育活動が行われている。

#### 大学院教育：

平成 26 年度は博士課程前期課程 1 年 16 名、2 年 15 名、博士課程後期課程 1 年 2 名、2 年 7 名、3 年 3 名の計 43 名であった。前期課程では 15 名が修士論文を提出し、修士の学位を取得した。以下、学生名と修士論文題目を記す。

- |        |  |
|--------|--|
| 岩瀬 大祐  | Readout Segmented Echo Planar Imaging 法で取得された拡散強調画像を用いた Q-space Imaging 解析 |
| 大久保 翔平 | Talbot-Lau 干渉計を用いた Visibility 画像における被写体位置依存性の検討                            |
| 大橋 侑真  | X 線 CT 画像の雑音の統計的性質に関する検討   |
| 長村 晶生  | 安静時脳内ネットワークと種々の精神学的指標との関連について  |
| 木村 健人  | X 線 CT 画像のシミュレーションにおけるサンプリング誤差の軽減に関する検討                                    |
| 小林 貴博  | 波形解析を用いた深さ方向位置検出型 PET 用検出器に関する研究   |
| 柴田 貴行  | Talbot-Lau 干渉計を用いた Visibility 画像における方向依存性の検討                               |
| 塚本 一輝  | X 線 CT 画像の各画素における雑音分散と吸収線量に関する検討   |
| 丹羽 亜利紗 | 心臓用多焦点型ファンビームコリメータを用いた心筋血流シンチグラフィの至適収集条件に関する研究                             |
| 丹羽 奈緒子 | CdZnTe 製フォトンカウンティング検出器を用いたマンモグラフィ装置開発における高エネルギー X 線の検討                     |
| 原田 崇臣  | 治療用陽子線ビームを用いた新たな照射野形成法の可能性   |
| 藤田 佑介  | 肺及び脳からの I-123 IMP 収集データを用いた非侵襲的脳血流量測定法の簡便化と有用性の実証                          |
| 安田 岳史  | 健常ボランティアの拡散テンソル画像および 3 次元 T1 強調画像と知能指数の関連について                              |
| 山崎 美咲  | CdZnTe 製フォトンカウンティング検出器を用いたマンモグラフィ装置開発に向けた散乱線に関する研究                         |
| 米山 祐也  | 計算流体力学による血流動態解析：使用する形体画像による影響について  |

後期課程では1名が博士論文を提出し、博士の学位を取得した。以下、学生名と博士論文題目を記す。

中澤 寿人 頭蓋内腫瘍に対するガンマナイフ治療の精度検証及び適応の拡大に関する研究 (H26. 9. 30 修了)

### 3. 研究活動

当専攻の教員は幅広い専門分野を研究領域としているため、個々の教員が独自の研究活動を行っている。一部にグループによる研究活動、専攻以外との共同の研究活動も行っている。以下には各教員の研究領域を示し、外部と協力して実施している研究活動の一部を示す。

- 池田 充 教授 : 被ばく線量と画質との関係に関する研究。医用画像の画質評価に関する研究。
- 石樽 信人 教授 : 内部被ばく線量評価に関する研究 : (a) ラドン壊変生成物の線量評価、(b) 放射性核種の体内挙動の計算シミュレーション、(c) 人体内放射能の排泄促進効果の体内動態モデルによる検討。
- 磯田 治夫 教授 : 磁気共鳴 (MR) を用いた脳機能解析・血流解析 (特に脳動脈瘤)・心筋運動解析に関する研究。サーモサイフォン効果を具備した凍結治療プローブ開発。MR 撮像技術・MR 画像診断ならびに神経系・頭頸部画像診断に関する研究。平成 26 年度は脳機能解析研究で 2 名、血流解析研究で 1 名の修士を輩出した。
- 今井 國治 教授 : 数理統計学及び情報理論を用いた CAD のための画質評価法の構築。高電圧下における誘電・絶縁材料の放電劣化・破壊現象に関する研究。
- 加藤 克彦 教授 : ポジトロン核医学に関する研究。核医学画像診断。甲状腺機能亢進症の  $^{131}\text{I}$  内用療法。  $^{18}\text{F}$ -FDG、  $^{18}\text{F}$ -DOPA、  $^{11}\text{C}$ -choline、  $^{11}\text{C}$ -methionine、  $^{18}\text{F}$ -FLT、  $^{18}\text{F}$ -Na 等を利用した腫瘍 PET/CT に関する研究。  $^{123}\text{I}$ -IMP を使用した SPECT 検査における新しい低侵襲性脳血流定量測定法の確立に関する研究。各種核医学検査における定量測定に関する研究。
- 小寺 吉衛 教授 : 医用画像の評価法の開発。検出器、表示系を含む医用画像の解析・評価。画質の向上と被曝線量の低減を目的としたデジタル画像処理。3 次元画像表示システムの開発。

- 島本 佳寿広教授 : 乳腺・甲状腺の超音波診断に関する研究。診断能に悪影響を与えないモニタの基準、読影環境、端末の操作性等を確立する研究。読影医の診断論理の妥当性を検証する研究。
- 山本 誠一 教授 : PET 装置, ガンマカメラ, 複合イメージング装置などの分子イメージング機器の研究開発。放射性セシウム検出器, イメージング装置などの環境放射能測定装置に関する研究。
- 津坂 昌利准教授 : 術中 MRI を用いた脳外科手術ナビゲーションシステムの精度に関する研究。医療用液晶モニタの画質評価。携帯情報端末の画質評価と医療への応用。IT 活用による医療技術者教育システムの開発。高速画像ネットワークの技術開発と応用。暗号化通信、画像圧縮技術の遠隔医療への応用。
- 小口 宏 准教授 : 電子線計測法 (水吸収線量計測、相互校正法) に関する研究、ポリマーゲル計測法の臨床応用に向けた開発、呼吸同期放射線治療に関する精度評価、画像誘導放射線治療 (IGRT) に関する精度評価。
- 小森 雅孝准教授 : 陽子線治療における新規照射野形成法の開発。陽子線治療における中性子被ばくに関する研究。高エネルギー X 線治療計画装置の線量分布計算精度の評価。
- 小山 修司准教授 : 診断領域 X 線の計測法の研究。X 線 CT の患者・術者の被ばく線量計測。診断領域 X 線のエネルギー計測。マンモグラフィにおける線量計測。MR 撮像技術に関する研究。
- 緒方 良至 助教 : サムピーク法による放射能の絶対測定に関する研究。福島原発事故由来の環境汚染分析。放射性ストロンチウムの迅速測定法の開発。空気中放射性ヨウ素濃度の高感度モニタリング装置の開発。放射線取扱施設の安全管理に関する研究。PET サイクロトロン周辺の放射化に関する研究。
- 本間 光彦 助教 : 放射線治療領域における放射線計測法に関する研究。CR の応用利用に関する研究。人体解剖実習体の X 線撮影・CT 撮影に関する研究。放射線カウンセリング。
- 川浦 稚代 助教 : 人体ファントム計測システムを用いた医療被ばくの測定・評価。日本人乳幼児人体ファントムの開発。X 線 CT 検査における画質と線量の関係解明。
- 福山 篤司 助教 : MR 装置を用いた血管内血流動態の計測精度の検証と改善。Readout Segmented-Echo Planar Imaging を用いた QSI 解析。RESOLVE シーケンスで得られる ADC の精度検証。

藤井 啓輔 助教 : X線 CT 検査における成人および小児患者の被ばく線量評価と放射線防護に関する研究。低線量肺がん CT 検診における撮影条件の最適化に関する研究。

#### 4. 対外的な、または社会に関わりある活動

- 1) 電子情報通信学会 2014 年度第 4 回イメージ・メディア・クオリティ研究会 (IMQ) にて、「放射線画像における視覚評価法」の講演を行った (池田)。
- 2) 国際医療福祉大学・平成 26 年度原子力災害影響調査等事業に関する専門委員会委員として、当事業の推進に関する審議に専門家の立場から参画した (石樽)。
- 3) 独立行政法人放射線医学総合研究所・国連科学委員会国内対応委員会委員として、国による国連科学委員会への対応に関する審議に専門家の立場から参画した (石樽)。
- 4) 独立行政法人日本原子力研究開発機構・国際放射線防護委員会技術的基準等の整備運営委員会委員として、ICRP2007 年勧告の取り入れのための技術的基準の整備に関する審議に線量評価の専門家の立場から参画した (石樽)。
- 5) 日本放射線安全管理学会の理事を務めた (石樽)。
- 6) 公益社団法人日本放射線技術学会と一般社団法人日本医学物理学会の共同英語論文誌 "Radiological Physics and Technology" (RPT) 誌の副編集委員長の一人として編集に従事した (小寺)。
- 7) Computer Assisted Radiology and Surgery (CARS) の program committee の委員としてプログラム選考に従事した (小寺)。
- 8) 岐阜市で開催された 12th International Workshop, IWDM2014 の Advisory Board として企画運営に関わった (小寺)。
- 9) タイ王国チュラロンコン大学学生の名古屋大学での研修と名古屋市内放射線治療施設見学を実施した (小寺)。
- 10) 第 67 回診療放射線技師国家試験の試験委員を務めた (島本)。
- 11) 独立行政法人日本学術振興会の委嘱により、特別研究員等審査委員会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員を務めた (平成 26 年 7 月 31 日まで) (島本)。
- 12) 一般社団法人日本乳腺甲状腺超音波医学会幹事を務めた (島本)。
- 13) 公益社団法人日本放射線技術学会と一般社団法人日本医学物理学会の共同英語論文誌 "Radiological Physics and Technology" (RPT) 誌の編集委員の一人として編集に従事した (山本)。
- 14) 第 54 回日本核医学学術総会のプログラム委員としてプログラムの作成、座長などを行った (山本)。

- 1 5) 米国シアトルで行われた 2014 Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference のプログラム委員を務めた(山本)。
- 1 6) 放射線医学総合研究所で開催された次世代 PET 研究会の企画世話人を務めた(山本)。
- 1 7) 一般社団法人日本核医学会健保委員会委員として診療報酬改定に関する要望項目の検討等に参画した(加藤)。
- 1 8) 外科系学会社会保険連合会手術委員会委員として手術報酬に対する外保連試案、新術式・改定等の検討等に参画した(加藤)。
- 1 9) 一般社団法人日本核医学会の評議員を務めた(加藤)。
- 2 0) 一般社団法人日本核医学会編集委員会の委員を務め、Annals Nuclear Medicine の編集に参画した(加藤)。
- 2 1) 公益社団法人日本医学放射線学会の代議員を務めた(加藤)。
- 2 2) 公益社団法人日本医学放射線学会保険委員会委員を務めた(加藤)。
- 2 3) 公益社団法人日本医学放射線学会編集委員会の委員を務め、Japanese Journal of Radiology の編集に参画した(加藤)。
- 2 4) 日本核医学会第 56 回学術集会副会長として日本核医学会第 56 回学術集会(2016 年)の準備活動に参画した(加藤)。
- 2 5) 公益社団法人日本医学放射線学会の代議員を務めた(磯田)。
- 2 6) 公益社団法人日本医学放射線学会中部地方会の世話人を務めた(磯田)。
- 2 7) 日本神経放射線学会の評議員を務めた(磯田)。
- 2 8) 一般社団法人日本磁気共鳴医学会の評議員を務めた(磯田)。
- 2 9) 日本低温医学会の理事・評議員を務めた(磯田)。
- 3 0) 第 4 1 回日本低温医学会総会大会長として、第 4 1 回日本低温医学会総会を企画・開催した(磯田)。
- 3 1) 一般社団法人医学物理学会の理事・計測委員・防護委員として会の企画・運営に関わった(小口)。
- 3 2) 公益社団法人日本放射線技術学会の評議員・放射線治療分科会委員として会の企画・運営に関わり、分科会 2 回、放射線治療セミナーを 2 回開催した(小口)。
- 3 3) 公益社団法人日本放射線技術学会関東部会の関東 RT 研究会代表幹事として会の企画・運営に関わり、セミナーを 5 回、シンポジウムを一回開催した(小口)。
- 3 4) 一般社団法人医学物理士認定機構の評議員・教育委員・広報委員として会の企画・運営に関わり、医学物理士認定、医学物理教育コース認定を行い、教育講演会を 2 回開催した(小口)。
- 3 5) 放射線治療品質管理士認定機構認定機構の理事として会の企画・運営に関わった(小口)。

- 36) 公益社団法人日本放射線腫瘍学会の物理技術WG 代表として会の企画・運営に関わった(小口)。
- 37) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構の理事・出版委員として会の企画・運営に関わり、認定事業、教育セミナー開催、機関誌発行を行った(小口)。
- 38) 長野赤十字病院放射線治療管理委員会の外部委員として2回の会議に参画した(小口)。
- 39) 国立がん研究センターがん対策情報センターのアドバイザーパネル委員として、放射線治療の安全対策に参画した(小口)。
- 40) 東海放射線腫瘍研究会技術部会の幹事として、研究会を6回開催した(小口)。
- 41) 第3回三次元ゲル線量計研究会の世話役として研究会を開催した(名古屋大学野依学术交流記念館)(小口)。
- 42) 平成25年度放射線治療専門放射線技師認定機構のセミナー講師(電子線計測)を行うと共に認定試験問題の作成、認定試験の実施を行った(小口)。
- 43) 日本放射線技術学会の学術委員として研究、教育、学会の企画、提案を行った(小口)。
- 44) 名古屋大学放射線治療物理学セミナーを4回開催した(小口)。
- 45) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構東京地区セミナー(国立がんセンター中央病院)で電離箱線量計の講義を行った(小口)。
- 46) 平成26年度放射線治療専門放射線技師認定機構の認定指導者実機講習会(東芝メディカル那須工場)の企画立案を行い、相互校正法の講演および実技指導を行った(小口)。
- 47) 三重県放射線治療研究会(三重大学)で電子線相互校正の実技指導を行った(小口)。
- 48) 福島県放射線治療研究会(太田西ノ内病院)において電子線相互校正の講演と実技指導を行った(小口)。
- 49) タイ王国チュラロンコン大学学生(3名)の名古屋市内放射線治療施設見学を実施した(小口)。
- 50) 第67回診療放射線技師国家試験問題検討会の放射線治療技術学の科目責任者として国家試験問題の検討を行った(小口)。
- 51) 名古屋陽子線治療センターの治療技術・物理検討委員会委員長を務めた(小森)。
- 52) 一般社団法人日本医学物理学会の教育委員を務めた(小森)。
- 53) 公益社団法人日本放射線技術学会と一般社団法人日本医学物理学会の共同英語論文誌“Radiological Physics and Technology”(RPT)誌の編集委員を務めた(小森)。
- 54) 東海放射線腫瘍研究会技術部会の幹事を務めた(小森)。

- 55) 一般社団法人 日本生体医工学会評議員およびME技術教育委員会委員として、会の企画・運営・試験実施に関わった(津坂)。
- 56) 一般社団法人 日本医療機器学会の評議員として、会の企画・運営に関わった(津坂)。
- 57) 一般社団法人 日本生体医工学会の実施する第1種ME技術実力検定試験・試験委員として試験問題の作成、および名古屋会場実施責任者として本学において試験を実施した(津坂)。
- 58) 一般社団法人 日本生体医工学会の実施する第2種ME技術実力検定試験・試験委員として試験問題の作成、および名古屋会場実施責任者として本学において試験を実施した(津坂)。
- 59) 一般社団法人 日本医療情報学会の実施する医療情報技師検定試験において試験委員、および名古屋会場副責任者として試験の試験を実施した(津坂)。
- 60) 一般社団法人 日本医療機器学会の実施するMDIC(医療機器情報コミュニケーター)認定制度において、MDIC認定セミナー講師、MDIC検定試験の試験委員として問題の作成、および名古屋会場副責任者として試験の実施を行った(津坂)。
- 61) 日本CT技術研究会第2回学術大会で大会長として、その企画・準備・開催を行った(小山)。
- 62) 第7回中部放射線医療技術学術大会で副大会長として、その企画・準備・開催を行った(小山)。
- 63) 第41回低温医学会で事務局長として、その準備・開催を行った(小山)。
- 64) 公益社団法人日本放射線技術学会代議員として、会の運営に参画した(小山)。  
国際計量研究連絡委員会放射線標準分科会専門委員として、本邦における放射線計量標準の運営に参画した(小山)。
- 65) 特別非営利活動法人日本X線CT専門技師認定機構X線CT認定技師試験委員会委員として、X線CT認定技師試験問題作成を行った(小山)。
- 66) 一般社団法人日本磁気共鳴医学会安全性評価委員会に委員として参画した(小山)。
- 67) 公益社団法人日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会中部支部に委員として参画し、平成26年3月放射線取扱主任者定期講習会講師、平成26年5月教育訓練講習会講師としてそれぞれ講義を行った(小山)。
- 68) 2014日本放射化学会年会実行委員(副大会長)として、会の企画・運営で、中心的な役割を果たした(緒方)。
- 69) 放射線教育フォーラムの理事および編集委員として、会の企画・運営に関わった(緒方)。
- 70) 平成26年7月 名古屋大学大学院医学系研究科において行われた、第34回人体解剖トレーニングセミナーにおいて、人体解剖実習の指導を行った(本間)。



- 7 1) 平成 26 年 7 月 公益社団法人愛知県診療放射線技師会主催、平成 26 年度フレッシュアーズセミナーにおいて、「胸部単純撮影講座」の教育講演を行った(本間)。
- 7 2) 平成 26 年 11 月 第 7 回中部放射線医療技術学術大会において実行委員として企画・運営を行った(本間)。
- 7 3) 平成 27 年 1 月 平成 26 年度独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ 診療放射線技師実習技能研修において、「診療放射線技師に必要な人体解剖学」の教育講演を行った(本間)。
- 7 4) 平成 27 年 3 月 公益社団法人愛知県診療放射線技師会主催、平成 26 年度第 4 回研修会において、「社会人のための基礎医学講座－運動器の解剖学概論」の教育講演を行った(本間)。
- 7 5) 公益社団法人日本診療放射線技師会の代議員として会の企画・運営に関わった(本間)。
- 7 6) 公益社団法人愛知県診療放射線技師会理事として、会の企画・運営に関わった(本間)。
- 7 7) 第 1 回日本 CT 技術研究会(JSCT)シンポジウム(慶應義塾大学病院)にて、CT 検査における受診者の被ばく線量と放射線リスクに関するセミナー講演を行った(藤井)。

(主任：島本 佳寿広)



## 医療技術学専攻病態解析学講座・検査技術科学専攻（平成26年度）

病態解析学講座では、正常ならびに病的状態における生体の諸現象をさまざまな専門分野で検討し、得られた情報を解析、統合し、医学ならびに保健学を推進するために有用な生体情報についての学術理論、新たな技術およびその応用を教授研究している。平成24年4月には名古屋大学大学院医学系研究科（保健学）での大学院講座化が実現し、病態解析学講座は新体制のもとで研究、教育の礎を着実に構築してきた。本講座は、環境病因解析学、病態化学解析学、病因病態解析学、生体生理解析学、形態情報解析学、分子病態解析学からなる。この6つの学問領域が、先端的な研究、学際的な病態解析、技術開発を進めるとともに、指導的医療人として、高度化・多様化する医療の動向を見据え、病態解析学研究を遂行できる能力の育成し、社会の急激な変化に対応可能な俯瞰力や独創力に加え、医療チームを有機的に連携させ、必要な場合には産学官に亘りグローバルに活躍できる能力をもつ人材の育成を図ることを教育の目的としている。

### 1. 運営

本講座は環境病因解析学、病態化学解析学、病因病態解析学、生体生理解析学、形態情報解析学、分子病態解析学の6つの学問領域からなる大講座であり、運営に関しては領域間の壁をなくして一体化した体制を築いてきた。講座の運営は講座主任（近藤）を中心に、全17名の教員が参加する講座会議の審議・決定に従って行われている。講座会議は第3水曜日の12時、ならびに第1、第4水曜日の17時から定期的開催され、必要に応じて臨時に開催されることがあった。

### 2. 教育活動

- 1) 4月に第17期の入学生43名（推薦入学生17名、前期日程入学生26名）と第15期の3年次編入生1名を迎えた。
- 2) 4月3日の新入生ガイダンスには講座主任、学生生活委員、教育委員、教員と1年生全員が参加し、専攻の教育と学生生活のガイダンス、教員の自己紹介、指導教員の紹介、学生の自己紹介などが行われた。
- 3) 感染対策

病態解析学講座として講座内感染対策委員会を中心に学生ガイダンス、臨地実習前などに検体を扱う上での感染予防の意義や検査、ワクチン接種等の指導を行った。また、実習準備として「滅菌と消毒」の再講義を行なうとともに、実習内容に衛生的手

洗い演習を導入するなど、学生実習における感染予防にも努めてきた。

- 4) 4月23日には検査技術科学専攻の2年生が中心になって、教員と共に新入生歓迎会を大幸厚生会館にて開催した。
- 5) 5月20日には第14期生の臨地実習を充実させることを目的に、病態解析学講座教員、医学部附属病院検査部の教員および技師との合同会議（臨床検査専門委員会）を開催した。
- 6) オープンキャンパス  
8月8日（金）に大幸キャンパスで実施し、申込者数220名に対して来場者数は200名であった。検査技術科学専攻の説明、教育カリキュラム、教育の目標と内容、特色と卒業後の進路の説明、卒業生からの講演を企画した。その後、1教員あたり4-5名の参加者を割り振り、参加者が研究室を訪ね、教員や院生による研究内容などの説明および顕微鏡を用いた観察などを体験した。同様の内容で午前・午後ともに2時間ずつ実施したが、アンケート結果より参加者の満足を確認でき、有意義なオープンキャンパスを実施できた。
- 7) 8月26日に第16回の3年次編入試験を行ったが、合格者はいなかった。
- 8) 8月27日に第14回大学院医学系研究科博士前期課程の入学試験を実施し、医療技術学専攻病態解析学分野では17名の合格者を決定した。また、8月28日に第12回同分野博士後期課程の入学試験を実施し、1名の合格者を決定した。
- 9) 平成27年3月には、本専攻の第14期生の43名が卒業した。そのうち17名が大学院博士前期課程へ進学し、就職希望の26名のうち1名をのぞき、大学病院や一般病院の検査部門、検査センター、健診センターや民間企業に就職した。また、大学院医学系研究科病態解析学分野（博士前期課程）の第12期生の修了生として13名を輩出した。本年度の修了者に社会人はいなかった。そのうち1名が本学大学院博士後期課程へ進学、就職希望の12名は全員が就職し、就職率は100%であった。博士後期課程では社会人1名が修了した。
- 10) 臨床検査技師国家試験に対する準備として、全教員による教育指導と6回の模擬試験を実施した。第61回国家試験（平成27年2月25日）合格者数は43/43（既卒者1名含む）で、合格率は100%であった。

### 3. 研究活動

本専攻では 4 月 5 日に博士前期課程に 14 名の第 13 期生、博士後期課程に 4 名の第 11 期生を迎えた。平成 27 年 2 月 11 日に病態解析学分野博士前期課程研究発表会（修士論文発表会）を開催し、前期課程第 12 期生名が成果を発表した。9 月 24 日には博士後期課程予備審査会（研究発表会）を開催し、2 名が研究成果を発表した。学部関係では 6 月 1 日に、第 14 期生による卒業研究発表会が開催された。以下に各部門における卒業研究発表演題を示す。

【生体生理解析学部門】 指導教員：永田浩三 平山正昭 渡辺彰吾

- 1 食塩感受性高血圧ラットの拡張性心不全に対する L/N 型 Ca 拮抗薬の抑制効果の検討
- 2 新規メタボリックシンドロームラットモデルにおけるアトルバスタチンの基本病態及び臓器障害に及ぼす効果の検討
- 3 パーキンソン病におけるリポ多糖とペプチド、及びサイトカインの関連
- 4 高齢者とパーキンソン病患者における連続刺激を用いた体性感覚誘発磁界
- 5 健常者、高齢者、パーキンソン病患者での脳萎縮度、拡散テンソル画像の変化
- 6 パーキンソン病患者とその家族の症状認識の差異

【病因病態解析学部門】 指導教員：川部勤 川村久美子 松島充代子

- 7 Modified Hodge Test におけるエルタペネムディスクの有用性の評価
- 8 2 剤耐性, 3 剤耐性を獲得した緑膿菌およびアシネトバクター属菌検出のためのスクリーニング プレートの構築
- 9 クリシンとケルセチンによる抗アレルギー作用機序の相違の検討
- 10 細胞膜に対するケルセチンの影響と細胞保護作用
- 11 体細胞高頻度突然変異と胚中心形成における CD40 誘導因子の役割
- 12 ダイアジノンがマクロファージに及ぼす影響の検討

【分子病態解析学部門】 指導教員：村手隆 小嶋哲人 高木明

- 13 プロテイン S 欠乏症の PROS1 遺伝子解析
- 14 プロテイン C 欠乏症の PROC 遺伝子解析
- 15 アンチトロンビン欠乏症の SERPINC1 遺伝子解析
- 16 Ceramide synthase 1 (CerS1) variant 3 発現調節機序の解明
- 17 Ceramide synthase 2 (CerS2) 転写調節における GATA 転写因子の関与
- 18 Ceramide synthase 6 (CerS6) プロモーターの主要領域の特定

【形態情報解析学部門】 指導教員：長坂徹郎 川井久美 橋本克訓

- 19 甲状腺髄様癌細胞におけるチロシンキナーゼ阻害剤の効果の検討
- 20 子宮頸部扁平上皮病変の分子病理学的解析

【環境病因解析学部門】 指導教員：近藤 高明 石川哲也 林由美

- 21 食物摂取頻度調査による推定脂肪酸摂取量と血清脂肪酸分画との関連性に関する疫学的研究
- 22 非喫煙女性の尿中コチニン値と問診による受動喫煙歴との関連性に関する ROC 解析
- 23 グレリン、レプチン、及び摂食状態がマウス肝障害の病態に与える影響について
- 24 レプチンが脂肪由来幹細胞の分化に与える影響について

【病態化学解析学部門】 指導教員：涌澤伸哉 上山純

- 25 HepG2 細胞における酸化ストレスと鉄のホメオスタシスに及ぼす HCV の影響の基礎的検討
- 26 Peg-IFNa と Ribavirin 併用療法を施行した C 型慢性肝炎患者における SLC28A2, 3 (CNT2, 3) の遺伝子多型と Hb 低下の関連性
- 27 殺虫剤アセタミプリドの体内動態解明
- 28 低用量ビスフェノール A 曝露評価にむけたバイオモニタリング法の基礎的検討
- 29 尿中コチニン濃度測定による小児受動喫煙評価法の検討

#### 4. 対外的な、または社会に関わりある活動

##### A) 国際交流

開始以来 5 年目を迎えた延世大学（韓国）との国際交流事業は、11 月 2-4 日に大幸キャンパスで行われ、延世大学検査学研究部門からは 1 名の教員と 2 名の大学院生が来日した。病態解析学講座からは 4 名の大学院生が研究成果について口頭発表と質疑応答を行った。渡辺彰吾助教は、病態解析学講座の教員紹介および自身の研究発表を行った。来日した 2 名の大学院生は交流会終了後にさらに 11 月 6 日まで滞り、研究室訪問や学生との交流を行った。また本学 3 名の大学院生（小寺、中村、松浦）は平成 27 年 1 月 21-28 日に延世大学 Wonju キャンパスを訪れ、研究室訪問と学生間交流事業に参加した。この交流事業組織委員会には永田浩三教授と林由美助教が出席し、企画や運営の役割を担った。

小嶋哲人教授は 10 月にベトナム・ハノイで開かれた第 8 回アジア太平洋血栓止血学会 (APSSTH 2013) に出席し、指導大学院生 4 名（口演 3 題、ポスター 1 題）の発表を指導するとともに、アジア諸国の研究者との議論のうえ共同研究の協議を行い、帰国

後に血友病 B 症例での遺伝子解析の共同研究を行った。

永田浩三教授は 4 月に米国心臓協会高血圧部会 (AHA-HBPR) の International Fellow (FAHA) に選出された。9 月にサンフランシスコ (米国) で開催された AHA-HBPR の年次集会 (HBPR2014) に出席し、指導大学院生 1 名のポスター演題を発表した。11 月に名古屋で開催された International Society for Heart Research (ISHR) 日本部会に出席し、ポスター演題 (渡辺助教) の発表と Chairperson を担当した。

村手隆教授の指導大学院生 2 名 (水谷、大森) は、第 55 回 International Conference on the biosciences of Lipids (Aberdeen, Scotland) に 2 演題をポスター発表した。

長坂徹郎教授は日本婦人科病理学会理事として 5 月 24 日台湾、台北市において開催された第 18 回日韓台婦人科病理合同会議に出席し、次回 19 回は日本がホスト国で、6 月に自身が会長となり名古屋で開催する旨を報告した。

近藤高明教授は 8 月 17-21 日に開催された第 20 回国際疫学会 (アラスカ州アンカレッジ) に指導大学院生 1 名と参加し、自身と大学院生がそれぞれポスター発表を行った。

川村久美子准教授は、平成 25 年 10 月に採択された博士課程教育リーディングプログラム「ウエルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラムの担当教員として、アドミッション リクルート WG に参画している。10 月には第 1 回生プログラム正規生 20 名を迎え、プログラムの担当教員として学生リクルートの企画、講義グローバルリーダーにおける講師招聘や海外実地研修の企画を行なった。また、平成 27 年 2 月 12-18 日には、担当教員 10 名とともにミャンマー研修に参加し、Yangon および Mandalay の Medical Technology を訪問し、学生交流ならびに今後の教員共同研究体制について情報交換を行なった。

## B) 大学間交流

5 月 23 日に筑波大学 (大学会館) で第 51 回国立大学臨床検査技師教育協議会が開催され、全国 20 校の代表が参加した。本学からは近藤高明主任が代表として出席した。二宮議長 (筑波大学) の議事進行で活発な議論が行われたが、主な議題としては、「専門分野別評価に対する準備」、「国立大学臨床検査技師教育施設が臨床検査学分野の中

核になるための方針について」、「臨床検査の残存検体の教育的利用の是非について」が取り上げられた。議論をうけて、コアカリキュラム作成に向けて各大学を対象に調査が実施され、次年度の協議会で報告されることになった。

5月19日と12月15日には、東京医科歯科大学で日本臨床検査学教育協議会が開催され、近藤高明主任が代表として出席した。大きな議題としては「臨床検査技師等に関する法改正（業務拡大）における教育について」があげられる。

石川哲也教授は、平成24年度から厚生労働省科学研究費補助金B型肝炎創薬実用化等研究事業の2つの研究班「B型肝炎ウイルスの持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発に関する研究」と「HBV cccDNAの制御と排除を目指す新規免疫治療薬の開発」に分担研究者として参加し、前者では名古屋市立大学大学院医学研究科病態医学、田中靖人教授と、後者では岐阜大学大学院病態情報解析医学、伊藤弘康准教授と共同研究を行っている。また、平成25年度からは、科学技術振興機構「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」での技術開発個別課題「iPS細胞分化・がん化の量子スイッチング in vivo Theranostics」（代表研究者 名古屋大学大学院工学研究科、馬場嘉信教授）に分担研究機関として、林由美助教とともに参加している。

永田浩三教授は、8月に開催された第9回日本臨床検査学教育学会学術大会に参加し、指導大学院生1名の演題を口頭発表した。またこの期間中に開催された科目別分科会第2回例会に出席し、生体検査学（循環生理学、呼吸生理学、神経生理学、画像検査学）の会長として臨地実習内容の標準化のための実習項目のクラス分類案をまとめた。

長坂徹郎教授は大学院研究、教育の一環として名古屋市立大学病院病理診断部の山下依子講師と婦人科領域の腫瘍に関する分子病理学的研究を行ってきた。

### C) 地域との連携

川部勤教授は、松島充代子助教とともに平成22年度から開始した愛知県「知の拠点」重点プロジェクトP3超早期診断技術開発プロジェクトに参加している。また、名古屋大学大学院工学研究科西澤典彦教授とOCTによる肺組織の観察システムの開発について共同研究を継続して行った。新たにデンソー（株）と「ガイダンス付きスパイロメータの評価」についての共同研究を開始した。

川部勤教授は、4月に第1回名古屋大学診断・手術支援画像研究会、8月に平成26年



度第3回マルチモーダルバイオイメージセンサ研究会、9月に第24回応用物理学会東海支部基礎セミナーでの講演、また、第89回日本結核病学会総会では Rothel 博士（オーストラリア）の招請講演座長を務め、地域への研究活動の情報提供、啓発活動を行った。平成27年3月に第19回名古屋呼吸器領域卒後専門教育セミナーのプログラム委員としてセミナーを企画実行した。

また、川部勤教授は愛知県公害健康被害認定審査会会長として申請書類の審査に責任をもち、日本アレルギー協会東海支部編集委員として第21回アレルギー週間事業として「市民公開講座と相談会」を平成27年2月に高木健三支部長のもと松島充代子助教と共に主催し、講演も行った。さらに東海喘息研究会をはじめとする研究会の世話人として呼吸器・アレルギー疾患の基礎ならびに臨床研究の活性化、啓発活動の推進に尽力した。平成23年より特定非営利活動法人 中日本呼吸器臨床研究機構の監事として機構の運営に関わり、平成24年からは椋山女学園大学実用化研究拠点に参加研究者として協力している。

石川哲也教授は、平成23年度より長寿医療研究開発費「高齢者の食欲不振、低栄養状態の原因の解明に関する研究」（代表研究者、国立長寿医療研究センター病院消化機能診療部 松浦俊博部長）に分担研究者として参加している。また、第2回知多消化器勉強会（平成26年4月12日）、中日健康フェア2014（平成26年9月7日）、愛知県保険医協会内科臨床研究会（平成26年11月1日）、北区消化器研究会（平成26年11月8日）での、肝疾患に対する診断、治療についての講演を通して、地域への情報提供、啓発活動を行った。

小嶋哲人教授は、東海ヘモフィリアワークショップ2014（平成26年10月3日）において、世話人の一人として会の運営に参加するとともに、地域への研究活動の情報提供、啓発活動を行った。また、全国的な学会活動として日本血液学会（平成26年10月30日・大阪）での「Symposium 9/The front line of thrombosis and hemostasis research」において、海外からの演者も加わる中シンポジストの一人として英語による講演を行った。さらに、日本血栓止血学会 SSC シンポジウム（平成27年2月28日）では、教育講演「先天性血栓性素因の診断」の講演を通して啓発活動を行った。

近藤高明教授は、平成14年から愛知県犬山での健康プラン推進委員会」の委員として地域の健康増進活動に学術専門家として協力してきたが、平成26年度は犬山市の健康寿命の算定を行った。8月下旬に北海道八雲町で3日間実施された「町民ドック」は多くの大学と町の共同で疫学調査を兼ねた事業であり、スタッフの一員として1名の大学院生と上山純准教授とともに参加し、その成果を町民の予防活動に還元するよ

う努めた。8月と3月には、愛知県内の殺虫剤散布従事者を対象とした健康調査と結果判定作業に上山純准教授とともに参加した。1月には愛知県職員で脂質異常症の疑いを指摘された健診受診者を対象に、教育講演を行った。また名古屋大学早期予防医療創成センター教授を兼任し、名古屋COI (Center of Innovation) プロジェクトのユニットとしてトヨタ自動車の支援をうけて豊田市とともに立ち上げた「豊田健康ナビゲーター倶楽部」の設立・運営活動に参加した。また厚労省が推進している健康保険組合主体の「データヘルス事業」の一つに山田純生教授（理学療法学講座）とともに参加し、企業従業員の健康推進活動を支援した。平成25年度からは、NPO法人「脳梗塞・心筋梗塞再発予防センター（山田純生代表）」に理事として参加している。

長坂徹郎教授は日本臨床細胞学会東海連合会の幹事として6月15日には、細胞診基礎講習会の講師を担当し、子宮内膜、卵巣の細胞診に関する教育講演を行った。平成27年2月8日には第11回細胞検査研修会において基調講演「婦人科領域腫瘍におけるWHO分類の改訂点について」を行った。また、日本病理学会、国立がんセンターがん対策情報センター病理コンサルタントの委託を受け、婦人科領域の病理診断コンサルテーションを行っている。

上山純准教授は日本衛生学会評議員と日本医用マスペクトル学会評議員を任命され学会運営に協力した。岡崎市保健所にて平成26年度第2回地域保健従事者研修会（平成27年2月20日）で講師として依頼を受け、「小児を対象とした尿中殺虫剤代謝物モニタリング」と題する口演を行った。また、岡崎市保健所が実施している研究プログラム「3歳児の尿中コチニン濃度と受動喫煙状況調査」について共同研究者として参加している。

形態情報解析学部門（長坂徹郎教授、川井久美准教授、橋本克訓助教）は、東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの後援を受けて、名古屋大学細胞診セミナーを開催した。本セミナーは、卒後教育の一環、細胞診の診断精度の向上を目的として平成25年度より開催している。平成26年度は計4回（7月、9月、12月、3月）、毎回、臓器別テーマごとに著明な細胞診専門医、細胞検査士を講師として招聘して鏡検実習を含む実践的なセミナーを開催し、東海地区の細胞検査士、臨床検査技師、学生などのべ248名が受講した。

永田浩三教授は、日本循環器学会社員、日本高血圧学会評議員、日本心不全学会評議員、日本内科学会東海支部評議員として学会活動の活性化に尽力した。10月より日本高血圧学会学術委員に就任した。東海心筋代謝研究会の世話人および名古屋大学分子細胞循環器研究会の幹事として循環器疾患の基礎ならびに臨床研究の活性化に尽力し

た。名城大学附属高等学校・学校評議員およびSSH 運営指導委員会委員として学校運営および高大接続のために尽力するとともに、7月より同校のSGH 運営指導委員会委員に就任し、同校が取り組むSGHの事業計画および成果報告に関する評価・指導・助言を行った。4月より名古屋大学予防早期医療創成センター教授を兼任することとなった。

川村久美子准教授は、名古屋大学予防早期医療創成センター准教授（兼任）として、日本ガイシ株式会社との共同研究（新規プラズマ滅菌装置の開発）に参加している。日本ガイシ株式会社との共同研究により得られた成果を論文化するなど、産学官の連携および融合研究の発展に尽力した。

高木明助教は、東海KOAG研究会代表幹事として東海KOAG研究会を2回（平成26年4月17日、9月1日）主催し血液検査部門に従事する臨床検査技師の卒後教育に尽力した。東海アカデミー「スキルアップセミナーⅣ」（平成27年2月22日）での講演を通して、臨床検査技師の卒後教育に尽力した。

橋本克訓助教は愛知県臨床検査技師会・病理細胞検査研究班の班員と活動し、病理・細胞診部門に従事する臨床検査技師の卒後教育に尽力した。同研究班においては、主に病理検査の精度管理を担当し、平成26年度はKi-67の免疫染色サーベイの実施責任者として病理検査部門の精度管理事業を統括し、平成26年度愛知県臨床検査精度管理調査総括集の執筆と精度管理調査報告会（3月14日）において発表した。

（主任：近藤 高明）



## リハビリテーション療法学専攻理学療法学講座・理学療法学専攻（平成26年度）

理学療法学は、身体組織および機能の障害、あるいは能力低下を持ちながらも、質の高い人生を送るために不可欠なリハビリテーション医療に関する研究推進ならびに高度専門教育を行う。そのために、障害の原因となる病態や機能障害の発生機序を生理学的に解明する基礎研究とともに、障害の効果的回復や機能維持、更には疾病・障害の再発予防に関する臨床研究を積極的に推進し、質の高い理学療法の基盤を創造する。また、学内他専攻はもとより、他大学ならびに海外の学術・研究チームと積極的に交流し、国際的水準で研究推進ならびに後進の指導を行い得る人材の育成に努めるものである。

### 1. 運営

本専攻は、2012年度から大学院の重点化に伴い、リハビリテーション療法学専攻理学療法学講座として組織されている。運営は、全教員（総数9名）による講座会議（毎週水曜日12時から開催）における協議・決定にしたがい進められている。さらに、同じ専攻である作業療法学講座と合同の大学院会議（毎月第1,3水曜日）を行っている。平成27年3月31日（火）付けで、河村守雄教授、河上敬介准教授が退任された。

### 2. 教育活動

学生については、学部においては理学療法学専攻の名称が用いられる。大学院博士前期課程では理学療法学分野、大学院博士後期課程はリハビリテーション療法学専攻が理学療法学領域と作業療法学領域を併せて一講座としているため、便宜上、理学療法学関係と記述している。

#### ○平成26年度の具体的活動内容

学部生としては、4月に保健学科理学療法学専攻第17期生として21名の学部学生を迎え入れた。性別では男子学生8名、女子学生13名であった。選抜方法による内訳は、推薦入学7名、前期日程試験入学13名であった。また、2年次編入に合格した学生3名が加わった。大学院には、前期課程に8名（一般選抜7名）、後期課程に2名（一般選抜0名）が入学した。こうして、理学療法学専攻としての学生数は、1年生21名、2年生24名、3年生24名、4年生24名、大学院博士前期課程リハビリテーション療法学専攻理学療法学分野の1年生8名（一般選抜7名）、2年生9名（一般選抜6名）、後期課程のリハビリテーション療法学専攻理学療法学講座は1年生2名（一般選抜0名）、2年生4名（一般選抜1名）、3年生1名（一般選抜0名）となった。

新学期には4月3日(木)午前中に新入生、編入2年生に対する全体ガイダンス、午後からは作業療法学専攻とともに新入生、編入2年生に対する教務および学生生活ガイダンスを行った。ここでは作業療法学専攻と共同で、全教員との顔合わせも行った。4月4日(金)には新大学院生を対象とした全体ガイダンス、情報関係ガイダンスに続いて、リハビリテーション療法学専攻によるガイダンス、在校生ボランティアからの説明等があった。4月5日(土)午前中に入学式が行われた。4月9日(水)には2-4年生と編入2年生を対象とした在校生ガイダンスを行なった。この在校生ガイダンスでは、共通科目については理学療法学専攻・作業療法学両専攻合同で、専門科目については理学療法学専攻単独で、各学年別に1時間ずつを使い、本年度のカリキュラムの説明、学生生活のルールの再確認を行った。これらにより、本専攻に所属する学部学生、大学院生のすべてに対して、カリキュラムの説明、学生生活のルールの説明・再確認がおこなわれた。説明は主任、教育・FD委員、学生生活委員、授業担当教員が担当した。

4月12日(土)には、専攻内での新入生歓迎会を行った。新2年生が幹事となり、土曜日半日を使い、在校生、新入生、教員が参加し、全員の自己紹介、懇親会(大幸厚生会館)を通じて人間的交流・連携の強化を達成した。

4月中旬から臨床実習Ⅱ、Ⅲが始まる4年生に対し、各教員が臨床実習に必要な項目についての学内実習をおこない、4月21日(月)から実際の医療機関での臨床実習が始まった。この実習は各種疾患を観察し、臨床実習指導者のもとに基本的評価および理学療法プログラムの作成を目的としている。学生は多くの不安を抱きながら、実習先に向かったが、5週ごとの反省会で、種々の問題点などが指摘されながらも、全員無事この実習を終えることが出来た。4年前から開始した臨床実習前の学内実習もあって、各学生とも実りの多い臨床実習を経験できたものと思われた。臨床実習は7月4日(金)に終了した。4年生は7月7日(月)に臨床実習反省会を行ない、翌日に理学療法セミナーⅡの一部として、実習で担当した患者様の症例報告会を行なった。理学療法セミナーⅡはさらに吸引療法の理論と実際について、非常勤講師とともに看護学専攻教員、理学療法専攻教員らがそれぞれ担当して行った。

また、4年生を対象として地域理学療法学実習が5月27~29日、7月11~18日の期間、3つのグループに分かれて行われた。地域理学療法学実習はディサービスおよび訪問理学療法の実際を見学できる貴重な実習である。

夏季の集中実習として7月28日~8月2日の6日間、病態人体解剖実習が行われた。これには医学部主催の人体解剖トレーニングセミナーで解剖されたご遺体が提供され

た。学生にとっては人体構造と機能の理解を深めるとともに、ご遺体に対する感謝の念を通して人の命の尊厳を考え、将来の医療人としてのあり方を考えるよい機会となった。

平成27年度2年次編入学試験は8月26日(水)、大学院博士前期課程入学試験は27日(木)、同後期課程入試は8月28日(木)にそれぞれ実施し、リハビリテーション療法学専攻博士前期課程理学療法学分野に8名(一般選抜6名、社会人特別選抜2名)、博士後期課程理学療法学講座に1名(社会人特別選抜1名)が合格した。

9月24日(水)には博士後期課程の論文発表会(予備審査会)が本館第3講義室で行われ、理学療法学講座からは4名の学生が発表した。

学年を超えた学生間、学生と教員が密に交流する機会として、9月28日(日)から1泊2日の日程で岐阜県多治見市の文化施設「地球村」へ出かけて講演会、親睦会、バーベキューを楽しんだ。これには教員・学生合わせて約77名が参加し、専攻の絆を深めた。

韓国延世大学との学術交流会が企画され、本講座には教員1名と大学院生3名をお招きし、11月2日から5日間にわたって学術交流と親睦を深めることができた。また、11月17日～24日にかけて、本学の大学院生2名を延世大学に派遣し、学術研修を受けるとともに、国際交流を図る機会となった。

後期授業では4年生の卒業研究の後半部分が再開され、11月26日(水)に本館第2講義室において最終発表会が開催された。24題の発表があり、教員ならびに在學生との活発な討論が交わされた。1、2年生にとっては将来の自身の研究の参考になったと思われる。また、3年生の卒業研究中間発表会は平成27年3月13日(金)に本館第1講義室で行われた。合計25題の発表があり、1、2年生からの質問も多く、活発な発表会となった。

大学院では、平成27年2月12日(木)に作業療法学専攻を含みリハビリテーション療法学専攻理学療法分野(博士前期課程)11期生の修士論文ならびに博士後期課程博士論文発表会が行われ、前期課程9題、後期課程1題、合計10題の発表があった。また、3月14日(土)には前期課程1年生(14期生)の中間報告会が行われ、理学療法分野から8題の発表があった。博士前期課程修了者は9名で、就職8名、博士後期課程進学者1名であった。博士後期課程修了者1名、満期退学者1名がそれぞれ学位を取得した。

3月1日（日）には理学療法士国家試験が施行され、本専攻学部平成26年度卒業生24名が受験し全員が合格した。3月25日（水）には保健学科第14期生の卒業式が執り行われた。本専攻は編入学生を含め24名の新卒業者を世に送り出した。そのうち18名が病院に就職し、6名が大学院（そのうち1名が医学研究科）へ進学した。

3月7日（土）には平成28年度大学院入学者のための大学院説明会が開催され、理学療法学講座説明会には、学生14名、社会人5名、合計19名が参加した。

### 3. 研究活動

各教員の研究テーマは、以下のとおりである。

河村守雄教授： 実験的異所性骨化と関節運動および不動化の関係、骨形成因子の特性と臨床応用、脊髄損傷モデルマウスの病態、慢性腰痛症状保有者の再発予防対策

鈴木重行教授： 筋ストレッチングの効果に関する研究、骨盤底筋群に対する理学療法効果、作業関連性筋骨格系障害のメカニズム検証、培養筋細胞を用いた機械的刺激の影響に関する研究

山田純生教授： 心不全のリハビリテーション介入、電気刺激による骨格筋分解抑制、フィットネスと疾病・障害予防

亀高 諭教授： 筋芽細胞の膜融合過程の調節機構、遺伝性痙性対麻痺の原因遺伝子群（SPG 遺伝子群）の機能解析、筋分化におけるオートファジーの役割

内山 靖教授： 姿勢・運動の制御と運動学習に関する研究、症候障害学、理学療法学教育に関する実践的研究

河上敬介准教授： 機械刺激に対する培養細胞の形態応答のメカニズムの解明、伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム、筋・筋膜連結の形態と臨床的意義

石田和人講師： 脳出血モデル動物における中枢神経の病理変化と運動療法の効果に



関する研究、糖尿病モデルラットを用いた理学療法効果の検証、運動による脳梗塞障害予防効果に関する基礎的研究、抑うつモデルの確立および理学療法効果の検証

李 佐知子助教： 脳血管障害後の痙性発症メカニズムの研究、大脳皮質損傷後の運動機能回復メカニズムの研究

野 嶋一平助教： ヒトを対象とした運動学習に伴う脳の可塑的変化の研究およびその臨床応用研究

河村守雄教授は平成27年3月31日をもって退職となるため、3月20日（金）に「名古屋大学での41年を振り返って」の演題で最終講義が行われた。多くの教員、大学院生、学部生、外来者が河村教授の熱のこもった講義を拝聴した。また、翌日には退任祝賀会が催行され、出席者一同、河村教授の長年の功績をたたえ、また名古屋大学への貢献に感謝の意を表した。

#### 4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

臨床実習指導者連絡協議会（スーパーバイザー会議）が7月30日（水）に行われた。内容は、臨床実習全般（理学療法イントロダクション、同コミュニケーション、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）についての報告と反省、臨床実習前の学内実習である基本的臨床技能実習（OSCE）試験の実際とその学習効果、さらに臨床実習Ⅱ、Ⅲについて本学の理念や目的と実習施設における実習目的との差などについて協議した。更に、後期より始まる臨床実習Ⅰ、理学療法コミュニケーション、同イントロダクションについて協議した。

専攻代表が出席した学外関係会議は、第17回国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会（9月18日（木）～19日（金）、担当：群馬大学）であった。

毎年夏に催される名古屋大学・大学説明会（オープンキャンパス）は8月8日（金）に行われた。保健学科は大幸キャンパスを主会場とし、参加した高校生に保健学科全体の説明がなされた後、各専攻に分かれ、本専攻の特徴などについて主任の鈴木教授が説明した。本専攻の説明会には194名が参加し、教員と学生が施設を案内し、質問に答えた。質問も多く、高校生の興味の深さが伺われた。

亀高教授、河上准教授が中心となり、保健学科解剖実習室を使用して、東海地区の理学作業療法学を含む11施設671名の学生が解剖標本見学の受託実習を行った。

10月28日（火）には防災訓練が行われ、保健学科全体で、教職員、学生が多数参加し、救助袋による避難訓練、初期消火訓練として消火器の取扱説明、消化栓による放水などがおこなわれた。

その他、大幸医療センターでの相談外来は、河村教授の腰痛相談室、鈴木教授の女性尿失禁相談外来が引き続き行われた。

（主任：鈴木 重行）

## リハビリテーション療法学専攻作業療法学講座・作業療法学専攻（平成26年度）

作業療法学講座および作業療法学専攻（以下、本講座）は、作業療法に関する学問的体系の確立と高度専門職業人の育成、および教育者、研究者の育成を目的として設置された。本専攻は、作業療法士専門職教員と医師教員から構成され、それぞれの専門を活かした教育・研究活動を通して作業療法学の発展に努めている。

### 1. 運営

平成26年度の本講座は、辛島教授（主任）ほか3名の教授（内、寶珠山教授は平成25年12月より脳とこころの研究センターに所属し作業療法学講座を兼務）、准教授2名、講師1名、助教2名より構成されている。

本講座の運営については、全教員が参加する会議（毎週水曜日開催）によって教育および研究活動の具体的な方針を決定している。

会議では、名古屋大学の学年歴および保健学科の諸行事に合わせて年間行事、事業についての計画とその計画進行状況の確認をはじめとして、予算に関する事案、学生の教育に関する事案（成績関連、単位認定、進級関連、卒後進路など）、学生生活に関する事案、臨床実習に関する事案（実習計画、臨床実習施設との連携など）、その他保健学科全体の抱える諸問題についての方針や考え方を討議決定している。特に、個々の学生への対応など具体的な問題について詳細な検討や問題解決への方策を決定している。

また、人事など教授専任事項については随時、講座教授会議にて審議を行っている。この会議は構成メンバー全員の意見の一致を原則として運営されている。

リハビリテーション療法学専攻で密接な連携関係にある理学療法学講座と共に毎月両講座会議を設け、作業療法学講座・理学療法学講座の全教員が参加し、両講座共通の課題に取り組み、連携・協力を図っている。

大学院運営の機構としては、作業療法講座は理学療法講座とともにリハビリテーション療法学専攻の会議を月に1回開いている。

### 2. 教育活動

作業療法学専攻の平成26年度入学生は、21名。選抜方法による内訳は、推薦入試で入学した学生は7名、前期日程試験で入学した学生は14名。性別では男子学生10名、女子学生11名であった。また平成19年度より募集を開始した2年次編入学生は3名。性別では男子学生0名、女子学生3名であった。

平成26年度の大学院博士課程前期課程作業療法学講座には6名（男子3名、女子3名）が入学した。内訳は、一般選抜による入学生は4名、社会人特別選抜による入学生2名。

また、博士課程後期課程作業療法学講座には4名(男子1名、女子3名)が入学した。

- 1) 平成26年4月5日の入学式以後：学部新生・編入生および大学院新生のガイダンスを実施している。毎年度始めには新生および編入生のみならず在校生各学年別に年度当初ガイダンスを実施し、当該年度における教育内容、学生生活に関する説明と確認を行っている。近年では、大学生活における安全衛生に関する諸注意、大学生として守るべき個人情報に関する注意など、情報化社会に対応した諸注意が重要であり、この点にも留意したガイダンスとなるよう努めている。大学における学修と生活の基本的内容については作業療法学講座および理学療法学講座と合同で行い、個別の内容について講座別にガイダンスを行っている。この時期4年生については臨床実習が既に始まっているために、ガイダンスは前年度末までに行われている。
- 2) 平成26年4月19日～20日：犬山国際ユースホステルでのガイダンス。通称犬山ガイダンスは、一泊二日の日程で行われる学部新生・在校生合同(学部4年生を除く。)の年度当初ガイダンスである。本年度も昨年と同じく愛知県犬山市犬山国際ユースホステルで開催した。新入の学部学生が円滑に快適で充実した学生生活を送るという目的で開催され、教員や2年生3年生先輩からの公私的な示唆や助言などを通して行われた。同時に学年相互の交流・親睦を目的として種々のイベントを開催した。
- 3) 平成26年4月1日～8月8日：4年生臨床実習実施。学部4年生を対象とし最終年次前期期間中、学内外の臨床施設(名古屋大学医学部附属病院を含め50施設)にて臨床実習を行った。実習期間を3期に分けて臨床実習Ⅰ(身体障害分野)、臨床実習Ⅱ(精神障害分野)、臨床実習Ⅲ(発達障害分野および老年期障害分野)の医療機関・施設で臨床実習を行なった。総計18週間の実習を行った。4年生の学外臨床実習に際しては、各施設に担当教員を配置し、実習学生の学修状況や体調、実習の進捗状況を把握するように努めた。学生の実習進捗状況はメールおよび毎週の会議で報告され、問題の生じた事例については、全教員で検討し、指導教員、実習担当教授、施設担当教員、実習担当教員が対応に努めた。
- 4) 平成26年6月25日：博士課程後期課程大学院生研究課題中間発表会。リハビリテーション療法学専攻2年生に在籍する大学院生5名(内、作業療法学講座1名)が研究テーマについての進捗状況を報告した。研究発表会では今後の研究方針について教員からアドバイスがなされた。
- 5) 平成25年8月8日：オープンキャンパス開催。大幸キャンパスにおいて保健学科全体および作業療法学専攻の大学説明会を実施した。説明会参加者に対して、講義室や実習室等を案内し、本学における本専攻の教育理念、方針、具体的教育内容について説明した。午前59名、午後29名が参加した。

- 6) 平成 26 年 8 月 26 日：学部 2 年次編入生入学試験。
- 7) 平成 26 年 8 月 27 日：大学院博士課程前期課程入学試験。
- 8) 平成 26 年 8 月 28 日：大学院博士課程後期課程入学試験。
- 9) 平成 26 年 9 月 12 日：卒業研究中間発表会（学部 4 年生）。卒業研究の途中経過の報告と教員による指導の機会として行われた。
- 1 0) 平成 26 年 9 月 16 日～26 日：作業療法入門実習（学部 1 年生）。本専攻に入学してから最初の臨床実習である。作業療法における主要な分野（身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、老年期障害分野）の関連の機関・施設 6 ヶ所の見学実習を行った。
- 1 1) 平成 26 年 9 月 16 日～12 月 10 日：作業療法基礎学実習（学部 2 年生）。作業療法の対象となる施設や対象者を理解する目的で 2 年後期に実施している。学生は、身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野及び老年期分野の 4 領域の医療機関・施設のうち 3 か所で実習をした。1 か所の実習は 3 日間とした。
- 1 2) 平成 26 年 11 月 2 日～4 日：第 5 回名古屋-延世大学大学間学術研究交流会が名古屋大学で開催され、名古屋大学作業療法学専攻大学院生 4 名と教員 2 名、延世大学作業療法学専攻大学院生 4 名の研究発表が行われた。
- 1 3) 平成 26 年 12 月 6 日：卒業研究発表会（学部 4 年生）。卒業研究の最終発表会であり、続いて論文の作成が行われた。研究発表会の内容は、卒業研究論文集として発刊した。
- 1 4) 平成 27 年 2 月 9 日：学部の推薦入学試験。
- 1 5) 平成 27 年 2 月 12 日：大学院博士課程前期課程および後期課程学位論文発表会。本講座からは博士課程前期課程 6 名、後期課程 1 名が発表を行なった。
- 1 6) 平成 27 年 2 月 19 日：臨床実習指導者会議。4 年次に行われる臨床実習での実習協力施設の実習指導者を招いて、臨床実習指導者会議を開催した。議題は主として平成 26 年度臨床実習報告、平成 27 年度実習計画と大学から主任が「臨床実習の到達目標を考える、基礎学実習の重要性と進め方」について説明をして全体でのディスカッションを行った。
- 1 7) 平成 27 年 2 月 25 日～26 日：一般選抜前期日程入学試験。
- 1 8) 平成 27 年 3 月 1 日：理学療法士作業療法士国家試験。本専攻から卒業予定者 21 名が受験した。

19) 平成27年3月7日:大学院説明会開催。一般学生16名、社会人4名(計20名)が参加した。

20) 平成27年3月14日:博士課程前期課程中間発表会。前期課程1年在籍の14名(内作業療法学専攻6名)が研究の進捗状況を報告した。

21) 平成27年3月25日:学部および大学院卒業式。本年度は学部学生21名(男性6名、女性15名)が卒業した。大学院リハビリテーション療法学専攻作業療法学講座では修士号6名(男性4名、女性3名)博士号2名(男性1名、女子1名、内留年生1名)の取得があった。

22) 平成27年3月30日:理学療法士作業療法士国家試験合格発表。本専攻21名全員が合格した(100%)

### 3. 国際交流

1) タイ国マヒドン大学 Dr. Supalak Khemthong の訪問。平成26年9月15日から23日まで滞在し、各研究室訪問、地域の病院、施設の見学、大学院生への講演を行った(Guest Speaker)

2) タイ国 「ヘルシー・ライフ・スタイル プログラム」マヒドン大学 ASEAN Institute for Health Development (AIHD) ・健康増進センター・公的病院・地域健康増進クリニックを訪問(視察)・交流(大学院生も参加)8月3日~8月7日、伊藤講師と大学院生2名が参加

3) ミャンマー 医療技術大学の教員交流及び、医療・保健・教育施設の視察医療技術大学(ヤンゴン及びマンダレー)訪問 大学紹介と学生や教員交流に関するミーティング。看護大学訪問・寺子屋(教育施設)・葬儀施設・職業訓練施設・特別支援教育施設訪問・視察(職員との交流)2月12日~2月18日。伊藤講師が参加する。

### 4. 澤田雄二先生ご退任、最終講義と記念式典の実施

平成27年3月14日。最終講義(16時~17時)、本館第2講義室で行い、記念祝賀会(18時30分~20時30分)は、ホテル名古屋ガーデンパレスで行った。

### 5. 研究活動

本講座では作業療法各分野および基礎的研究各分野における研究が大学院教育とともに行われている。研究は教員による個人研究が中心であるが、企業や他施設との共同研究も行われている。

#### 【共同研究】

- 1) 厚生労働省難治性疾患克服事業（スモン患者の QOL に関する研究：寶珠山・清水・上村・星野）
- 2) 厚生労働省老人保健健康増進等事業（施設入居認知症高齢者の QOL に関する研究・寶珠山）
- 3) 厚生労働省科学研究事業（複合性局所疼痛症候群の評価に関する研究（寶珠山）
- 4) 日本語入力 BCI システムの臨床応用の研究（工学研究科）（寶珠山）
- 5) てんかん患者における脳磁図及び脳画像解析（医学系研究科・小児科、脳神経外科）（寶珠山）
- 6) 手の外科領域における感覚障害と疼痛緩和効果に関する研究（医学系研究科・手の外科、リハビリテーション部）（寶珠山）
- 7) 青年期の精神病理学的研究（学生相談総合センターと共同研究）（鈴木）
- 8) ASD 児の情動的コミュニケーションを基盤にした作業療法の効果についての研究（京都：花ノ木医療福祉センター・辛島）
- 9) 中高年者の高次脳機能に関する長期縦断的資料を基盤とする神経心理学的研究（関西福祉科学大学、医学系研究科・整形外科）（伊藤）
- 10) 統合失調症に対する認知リハビリテーションの開発とその効果検証に関する研究（医学系研究科精神医学）（星野）

#### 【個人研究】

- 1) 精神障害の時代変遷に関する研究（鈴木）
- 2) 精神障害と社会との連関に関する研究（鈴木）
- 3) 発達障害の青年期に関する研究（鈴木）
- 4) 自閉症スペクトラム児の情動的コミュニケーションを基盤とした作業療法の効果（辛島）
- 5) 特別支援教育・作業療法士と教員のための環境因子観察表の開発（辛島）
- 6) 特別支援教育における机上課題の遂行を促すための座位と課題内容（辛島）
- 7) 重度知的障害者の生活の質と作業療法（辛島）
- 8) 運動と体性感覚誘発脳反応に関する研究（寶珠山）
- 9) 意識と感覚情報処理能力に関する研究（寶珠山）

- 10) 運動イメージの評価法開発に関する研究 (澤田)
- 11) ボツリヌス菌毒素投与後の作業療法介入有効性に関する研究 (澤田)
- 12) 課題および環境の変化に対応する上肢到達運動の多様性に関する研究 (澤田)
- 13) 上肢の左右両側運動の運動特性に関する研究 (澤田)
- 14) 運動学習における関節運動の変化に関する研究 (清水)
- 15) 感覚情報の違いによる心的疲労および回復程度に関する研究 (清水)
- 16) 日常生活活動に及ぼす手指関節の可動域の影響に関する研究 (清水)
- 17) 高次脳機能障害作業療法の効果に関する研究 (酒井)
- 18) 作業療法課題難易度と脳賦活に関する研究 (酒井)
- 19) 視知覚認知機能評価の開発に関する研究 (酒井)
- 20) 前頭葉機能と平行機能の加齢変化に関する研究 (伊藤)
- 21) 半側空間無視患者に対する上肢活性化訓練のADLへの影響 (効果) に関する研究 (伊藤)
- 22) 高次脳機能障害者の自己認識と就労結果との関連に関する研究 (伊藤)
- 23) 高次脳機能障害者の自動車運転に関する研究 (伊藤)
- 24) 精神障害者の就労支援に関する研究 (星野)
- 25) うつ病女性の家庭復帰における作業療法介入に関する研究 (星野)
- 26) 運動イメージ時の脳反応の研究 (上村)
- 27) 運動感覚イメージ課題による関連皮質領域ならびに皮質間連絡の賦活に関する研究 (上村)

## 6. 地域・社会活動

- 1) 平成26年10月～12月 第1～7回愛知県作業療法士会現職者共通研修 (上村)
- 2) 平成25年4月～平成27年3月(継続) 名古屋市介護保険認定審査会 (伊藤・清水・上村)
- 3) 平成26年4月～平成27年度(継続) 名古屋市教育委員会特別支援教育指導室スーパーバイザー (辛島)
- 4) 平成26年4月～平成27年12月 国立大学PT, OT教育施設協議会理事 (辛島)
- 5) 平成27年1月～平成27年12月 国立大学PT, OT教育施設協議会・会長 (辛島)

(主任：辛島 千恵子)



第10回名古屋大学  
ホームカミングデー  
平成26年度  
名古屋大学大学院医学系研究科(保健学)

## 市民公開講座

## もっとよく知ろう！さまざまな浮腫とその対策

後援：愛知県看護協会、愛知県診療放射線技師会、愛知県臨床検査技師会、  
愛知県理学療法士会、愛知県作業療法士会

名古屋大学医学部保健学科は、平成24年度より名古屋大学大学院医学系研究科(保健学)に名称が変わり、大学院としての教育や研究を一層充実していくこととなりました。私共は昭和58年以来、大学での研究成果や知的財産を地域の皆様に還元することを目的として、健康や医療に関わるテーマで一般市民の皆様を対象とした公開講座を開催してまいりました。本年は、「もっとよく知ろう！さまざまな浮腫とその対策」と題して2つの講義を開講いたします。多くの皆様のご来場をお待ちしております(受講は無料です)。

◎開講日時 平成26年10月18日(土) 10:00~12:10

◎開講場所 名古屋大学大幸キャンパス 東館大講義室(東館4階)

◎受講料 無料

◎定員 100名 事前の申し込みが必要です。

※当日直接ご来場された場合でも席に余裕があれば受講いただくことができます。

◎開講時間・題目・講師

むくみ

## 「もっとよく知ろう！さまざまな“浮腫”とその対策」

第1講 10:10~11:00 「高齢者にみられる“むくみ”の原因とその対策」

(講師：藤本 悦子・名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻・教授)

【内容】「むくみ」は高齢者がよく訴える症状の一つです。だるい、重いなどの不快な状態が続くと、高齢者の気分には大きな影響を与え、また、歩きにくさが見られる場合は活動性が低下することもあります。今回は、高齢者に起きるむくみの原因と、解消のためのケアについて考えてみたいと思います。

第2講 11:10~12:10 「日常的な“むくみ”とリンパ浮腫—その原因と対策—」

(講師：大島 千佳・名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻・准教授)

【内容】健康な方でも日常的に経験する「むくみ」は不快な症状であり、特にデスクワークや立ち仕事に従事している方の多くが「むくみ」に悩んでいます。また、がん治療後の後遺症として生じる「むくみ」は、「リンパ浮腫」と呼ばれ、その症状に悩まされる方もたくさんいます。今回は、日常的な「むくみ」と「リンパ浮腫」について、それぞれの原因と解消法を考えてみたいと思います。

◎お申し込み方法

- ・はがき、ファクス、または電子メール、のいずれかでお申し込みください。
- ・お申し込みには、①氏名、②年齢、③性別、④職業または学校名、を必ず記入してください。  
※電子メールの場合、表題を「市民公開講座申し込み」としてください。
- ・締め切り：10月11日(金) 到着分  
※受講可能な場合、お申し込みへの返信はいたしません。

◎お申し込み先

〒461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科(保健学) 教務学生掛  
Fax: 052-719-1506 E-mail: [ihogakumu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp](mailto:ihogakumu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp) (申込み専用)

## ◎会場への交通案内

### <地下鉄利用の場合>

名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車(1番出口) 徒歩10分、または、名城線「砂田橋」駅下車(1番出口) 徒歩10分

### <JRまたは名鉄利用の場合>

JRまたは名鉄「大曽根」駅から徒歩20分、名鉄「矢田」駅から徒歩10分

JRまたは名鉄「大曽根」駅からゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車徒歩5分

JRまたは名鉄「大曽根」駅から市バス「砂田橋」行き「大幸三丁目」下車すぐ

## ◎その他 (個人情報保護、自然災害等の取り扱いについて)

受講申込書などに記入された氏名、その他の個人情報は、本公開講座の運営のみに利用させていただきます。また、台風に伴い、名古屋市に暴風警報が発令され、午前8時までに解除されない場合には、安全確保のため、公開講座は中止とさせていただきます。加えて、災害や感染症の流行等が生じた場合についても、公開講座は中止とさせていただきます。その際は、本研究科ホームページ (<http://www.met.nagoya-u.ac.jp/>) 上でお知らせしますので、開講前は特にご注意願います。

平成26年度大学院医学系研究科(保健学)市民公開講座 アンケート集計結果

①性別、②年齢構成

	男	女	計	%
10代	0	0	0	0%
20代	1	4	5	7%
30代	1	0	1	1%
40代	3	4	7	10%
50代	2	5	7	10%
60代	5	9	14	19%
70代	8	19	27	37%
80代	2	10	12	16%
未記入	0	0	0	0%
計	22	51	73	100%

③職業

	男	女	計	%
学生	0	1	1	1%
会社員	7	8	15	21%
自営業	2	0	2	3%
主婦	0	29	29	40%
その他	2	4	6	8%
無職	11	8	19	26%
未記入	0	1	1	1%
計	22	51	73	100%

④本学の卒業生か

	男	女	計	%
はい	2	3	5	7%
いいえ	20	46	66	90%
未記入	0	2	2	3%
計	22	51	73	100%

⑤本講座を何で知りましたか(複数回答あり)

	男	女	計	%
新聞、TV	1	3	4	5%
区役所	1	1	2	3%
生涯学習センター	3	3	6	8%
図書館	1	1	2	3%
友人情報	2	5	7	9%
本学科からの案内	8	33	41	53%
ホームページから	3	2	5	6%
その他	3	7	10	13%
未記入	0	0	0	0%
計	22	55	77	100%

⑥感想を聞かせてください

	男	女	計	%
役に立った	16	44	60	82%
まあ役に立った	4	5	9	12%
あまり参考にならなかった	0	0	0	0%
その他	1	1	2	3%
未記入	1	1	2	3%
計	22	51	73	100%

⑦実施方法について

A全体の時間について

	計	%
長い	0	0%
丁度よい	69	95%
短い	4	5%
未記入	0	0%
計	73	100%

Bテーマ毎の時間について

	計	%
長い	0	0%
丁度よい	66	90%
短い	5	7%
未記入	2	3%
計	73	100%

C講演形式について

	計	%
講演型式	44	60%
参加型セミナー	12	16%
講演型式+参加型セミナー	4	5%
その他	0	0%
未記入	13	18%
計	73	100%

#### D希望テーマ・感想

- ・介護に関する内容
- ・高齢、認知症の対応
- ・糖尿病の食生活について
- ・認知症の現状と看護について
- ・今後も高齢者の方によく出る不調についての講座を開いていただくとありがたいです。
- ・健康等なんでもOKです。
- ・健康づくり(運動)
- ・ふくらはぎのむくみがあり、何が原因かが分からなく不安に思っていたので大変役に立ちました。
- ・認知症について
- ・体操は大変良かったので毎日したいと思いました。健康年齢のUPについて
- ・心臓は年を重ねる毎にダメージが多くなります。BMPの値はどの程度心臓に負担をかけ、どのように病状を悪化させるのでしょうかなど、心臓病の知識を与えていただければと思います。
- ・免疫力を上げるよい方法を示していただきたい。
- ・平均寿命と健康寿命に関し、平均寿命に近づける健康寿命の関わりについての講座を希望する。
- ・眼科に関すること(眼科に行っても異常がないのに不快な症状がある。眼のしょぼしょぼ、かすみなど)
- ・大変役に立ちました。ありがとうございました。リンパドレナージュ生続けたいと思います。
- ・高齢者相手の仕事をしています。ともすれば加齢と片付けられてしまうことに関する知識がもっともっと 得たいと思います。低栄養、口腔ケアに関連する事、認知症など。
- ・市民の方と一緒に学ぶことはなかなか興味深かったです。
- ・NHKの番組で亀田総合病院のドキュメント72時間で院内のコンビニが出ていました。産婦人科の女性医師が客として来店していました。当直後に日勤で過酷そうでした。医師が休日に来て講演するのは難しいと思います。看護学部に来て、アドバイザーのような立ち位置で質問に答えてみてはいかがでしょうか。
- (平日開催になってしまうのですが)
- ・高齢者の多い市民公開講座はできるだけ短い時間で終わる時間設計が望ましいと思います。(特に学生さん)
- ・高血圧に対する説明(いろいろの原因があると思われるが原因と対処)
- ・身近に潜む病気の事(予防・対策・治療)
- ・後遺症の出る可能性の高さ低さ
- ・経済性
- ・腹式呼吸全般・正しい方法(時間や回数)
- ・効用(各種に至りますが、その原理(理由))
- ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 特に『リンパの流れを促す簡単な体操』の説明及び実演(実技)は、小生が現在実施している準備体操の一部であり、リンパの流れを促進していることを知り(今までは、根拠を理解せず、単に実施していた)自信を持って今後は継続してゆきたいと考えています。感謝感激です。
- ・リンパの流れを促す簡単な体操は日常的にできそうで役立つ。
- ・手先から上の方に向かってマッサージするのか？足首より上腿に向かってか、腿から足先に向かってマッサージするのかよくわからなかった。
- ・健康保持をテーマに、実技を取り入れて下さい。聞くだけでは眠くなる。
- ・認知症関係の講座を希望します。うつ(状態)関係。特に回り家族の接し方
- ・子供が放射線科のオープンキャンパスに参加していましたので、放射線科系の公開講座があったら参加したいなと思いました。

## <まとめ>

本年度の市民公開講座は、看護学専攻が担当しました。加齢に伴い現われる浮腫とがん治療後に後遺症として現われるリンパ浮腫の二つに焦点をあて、看護学専攻より2名の講師を選出し、講演を行いました。

第1講は、「高齢者にみられる‘むくみ’の原因とその対策」と題し、高齢者全般にみられる浮腫の原因とケアについて、藤本悦子教授よりわかりやすくお話していただきました。

第2講では「日常的な‘むくみ’とリンパ浮腫—その原因と対策—」について、大島が講演をさせていただきました。健常者に生じる一般的な浮腫・がん治療後の後遺症として生じるリンパ浮腫それぞれの原因と解消法を、実技を交えながらお話させていただきました。

いずれの講演も、おおむね高い評価を得られていたと思います。

今回の企画は、看護学を専門とする本専攻の教員が、現在取り組んでいる研究の最新トピックスを市民の皆様提供する良い機会となり、社会活動として大きな貢献になり得たと思われま

(平成26年度 地域貢献委員会委員長：大島千佳)

